

令和6年度事業評価結果(課・室)総括表

会計区分一般会計

課・室名未来戦略課

(単位:千円)

事業名	区分	経費区分	福井県長期ビジョン における位置づけ	関連する県の計画等	事業区分			事業 開始 年度	経過 年数	令和 7年度 予算額	財源内訳				評価に基づく今後の対応									
					実行 予算	補助 金	その他				国庫	起債	その他 特定 財源	一般	拡充	継続	整理 統合	縮減	休止	廃止	終期 の見直し	完了	その他	見直し額
長期ビジョン推進事業	拡充	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R1	7	7,089	3,334			3,755	○									
SDGs推進事業	拡充	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R2	6	27,540	2,850		5,340	19,350	○									
ふくい政策デザイン推進事業	拡充	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R2	6	3,484				3,484	○									
政策立案のためのデータ分析・調査研究事業	継続	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R6	2	4,500	2,250			2,250		○								
政策企画調整費	継続	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R1	7	6,000				6,000	○									
先進技術活用による地域開発プロジェクト	継続	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○	○		R6	2	33,764				33,764	○									
令和6年度全国知事会議福井開催事業	終了	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R5	2													○		17,000
令和7年度将来世代応援知事同盟サミット 福井開催事業	新規	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R7	1	358				358										
ふくいブランド戦略推進事業	継続	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R5	3	11,563				11,563	○									
幸福実感推進事業	拡充	政策的経費	5 ともに進める(総合力)		○			R6	2	14,549	2,466			12,083	○									
首都圏・関西圏における交流拡大事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)		○			R2	6	3,091				3,091	○									
首都圏北部をターゲットとした巡回キャラバン事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R4	4	47,037				47,037				○						37,229
北陸新幹線開業首都圏キャンペーン事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R5	2													○		5,143
県産商品を活用した海外誘客促進事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R6	2	9,400	4,700			4,700	○									
首都圏在日外国人をターゲットとした誘客促進事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R6	2	6,384	3,192			3,192	○									
嶺南振興プロジェクト枠予算	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	行政改革アクションプラン、福井県高速交通関連アクション・プログラム	○	○		R1	7	160,000				160,000	○									
2024嶺南誘客キャンペーン開催事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ふくい観光ビジョンFIRST291～北陸新幹線開業プラン～			○	R4	3													○		65,000
「海湖と歴史の若狭路」発信事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ふくい観光ビジョン			○	H25	12													○		4,000
新幹線二次交通整備等支援事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	地域圏域公共交通関係計画ふくい観光ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～		○		R5	2												○			20,400
三方五湖エリア等広域バス運行支援事業	継続	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	地域圏域公共交通関係計画ふくい観光ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～		○		R3	5	3,335	1,667			1,668				○						278
레인ボーラインにおける混雑情報等発信支援事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	FIRST291～北陸新幹線開業プラン～		○		R6	1													○		1,640
若狭路ご当地弁当を活用した団体旅行誘客事業	終了	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	FIRST291～北陸新幹線開業プラン～	○			R6	1													○		1,903
外国人観光客への敦賀・若狭エリアPR事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R7	1	7,696	3,848			3,848										
SNSを活用した敦賀・若狭エリア宿泊滞在促進事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R7	1	2,531	1,265			1,266										
敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○		○	R7	1	43,316	17,995			25,321										
敦賀・若狭アウトドアアクティビティブランド化事業	新規	政策的経費	3 楽しみを広げる(創造力)	ネクストふくい観光ビジョン	○			R7	1	3,663				3,663										
					21	5	3			395,300	43,567		5,340	346,393	4	8		2			1	6		152,593

長期ビジョン推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史
事業主体	県	事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R11 年度		
事業実施方法	直営、委託										
補助率	－										
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営	関連する県の計画等		〔 〕							
[解決すべき問題・課題] 長期ビジョンが目指す将来像の実現に向け、県民への長期ビジョンの周知および県民アクションの喚起						[問題・課題を表す客観的データ] 長期ビジョンの認知割合(R4年度)33.7% 長期ビジョンの内容まで知っている割合は微増傾向だが、全体として認知割合は伸びていないため、引き続き周知が必要					
[事業目的] 令和2年7月に策定した福井県長期ビジョンが目指す将来像を県民が共有し、「チームふくい」で実現するため、県民に広く長期ビジョンを周知するとともに、ビジョン実現に向けた県民活動を促進する。											
[事業内容] ・長期ビジョン推進会議の開催 ・県民アンケートによる県民意識調査の実施 ・長期ビジョン現場deトーク・ワークショップ等の開催 ・チャレンジ政策提案に関する必要経費への支援											
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人					
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	ビジョン策定にあたり、県内すべての市町で市町別意見交換会を開催 (R1.8～9月) 実行プラン改訂にあたり、県内すべての市町で市町別意見交換会を開催 (R6.8～11月)					他県の状況					

長期ビジョン推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R11 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	7,089	3,334			3,755		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		4,096	3,528	3,075	10,314	7,089	・懇話会、地区別意見交換会開催費用の減 ・令和6年度改定の長期ビジョン実行プラン、人口減少対策戦略の印刷費用等の増					
2月現計予算額の推移		4,096	3,528	3,075	9,314							
決算額の推移		3,381	2,805	2,525								
前年度までの 主な増減理由		R4:セミナー開催経費、ビジョン増刷経費の減額 R5:ワークショップ開催経費等の減額 R6:実行プラン改訂に向けた経費の増額(懇話会開催、意見交換会開催等)										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ワークショップ等の参加者数 (目標) 実績	(3,000) 3,151	(3,000) 3,110	(3,000) 3,208	(5,000)	(3,000)	(3,000)	(3,000)	現場deトークやFUKUI未来トークなどの参加者数 6年度のみ実行プラン改訂のための意見交換会開催に伴い、目標を5,000名とする			
活動指標	ワークショップ等の開催 (目標) 実績	(30) 34	(30) 30	(30) 24	(30)	(30)	(30)	(30)	現場deトークやFUKUI未来トークなどの開催数			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・出前講座や専門学校での講義名など、様々な機会を捉えて長期ビジョンに関するワークショップ等を開催し、R7. 2時点の参加者数は7, 022名となり、目標を達成できた。					・引き続き、様々な方法で県民との長期ビジョンの共有を図るとともに、対面やアンケートにより県民の意見聴取を行い、県政運営に活かしていく。				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

SDGs推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託							□ 補助金				
補助率	－							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営					関連する県の計画等		〔				
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
・SDGsパートナーの拡大 ・パートナー同士の連携・協働の促進						・「ふくいSDGsパートナー」登録数:1,099機関(R6.3月末現在)						
[事業目的]												
県民が主役となり、持続可能で多様性のある社会を実現するため、SDGsの理念を県民に普及するとともに、その達成に向けた行動を促進する。												
[事業内容]												
(1)SDGsの普及啓発 ・「ふくいSDGsパートナー」登録制度の運営 ・「ふくいSDGs月間(ジュナナ・チャレンジ)」の実施 ・フォーラムの開催 (2)地域課題解決に向けたパートナーの連携・協働の促進 ・「ふくい未来人材育成プロジェクト」の普及拡大 ・「SDGsコーディネーター」によるパートナーの連携促進 ・SDGs商品の販路拡大 ・ふるさと納税を活用したSDGs推進事業の実施												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 (実績)	事業名					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 (役割分担)	事業名			
市町との連携状況						他県の状況						

SDGs推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補 助 金 □ そ の 他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	27,540	2,850		(寄) 5,340	19,350	国 庫:新しい地方経済・生活環境創生交付金 その他:寄附金(ふるさと納税) 一般財源のうち16,500千円は特別交付税措置あり(地域おこし協力隊)						
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移		4,462	5,979	16,315	25,788	27,540	・「パートナー活動PR資料の作成」終了による減額 ・「SDGs活動応援金事業」終了による減額 ・「未来人材育成プロジェクト」事業拡大による増額 ・「SDGs商品の販路拡大」事業追加による増額					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移		2,231	5,479	13,515	20,669							
決 算 額 の 推 移		2,223	5,479	13,045								
前年度までの 主な増減理由		R4:未来人材育成プロジェクト経費の増額 R5:「SDGsコーディネーター」設置に関する事業の追加による増額 R6:ふるさと納税を活用したSDGs推進事業の追加による増額										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	SDGsパートナーシップ会 議参加企業・団体数	(目標) (300) 実績 617	(850) 923	(1,000) 1,099	(1,200)	(1,400)	(850)	(1,400)	民間のSDGs達成に向けた行動を促進するため、会議に参加する企業・団体数の拡大を図る。(「ふくいSDGsパートナー」登録数の累計)			
活動指標	県・民間団体の活動内容の 広報	(目標) (10) 実績 72	(10) 104	(10) 147	(100)	(100)	(100)	(100)	SDGsに関する県およびパートナー登録企業・団体の取組の認知度を高める。(県または県とマスコミの連携により、パートナーの取組みを番組等で紹介した回数)			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・ふくいSDGsパートナーと協力し、普及啓発等を実施してきた結果、成果指標および活動指標について達成した。 R7. 2時点の活動指標は157件、成果指標は1, 294機関であり、いずれも目標を達成した。					・パートナーから、「SDGs商品の販路拡大」に関する需要があり、自走に向けた取組みを推進していくため、今年度予算では、市場のキーパーソンとの繋がりを設けていく。				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

ふくい政策デザイン推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕					関連する県の計画等						
[解決すべき問題・課題] 経済のグローバル化やAI・Iotなどの技術革新、ニューノーマル・LGBTなどの多様な価値観の進展など、行政を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、従来のアプローチのみによる政策立案には限界があり、デザイン思考の導入など新たな手法が求められている。						[問題・課題を表す客観的データ]						
[事業目的] 長期ビジョンに掲げる「デザインの力を活かし政策の質を向上させる」ため、過去の経験や政策事例によるのではなく、クリエイターと協働することでデザイン思考により県民目線に立った政策立案を進め、より質の高い政策立案を目指す。												
[事業内容] ○政策デザインの推進 クリエイター等との協働 ・政策デザインの推進における総合的なディレクションやアドバイス業務を担うアドバイザーを配置 ・真の課題や解決すべきことは何かを顕在化させ、担当課と県内クリエイターと一緒に政策を創り上げていく政策デザイン「共創」を実施 ・社会的な課題解決のデザインを実践しているクリエイター等によるセミナーや職員参加型ワークショップを開催 ・県政課題等について、県内デザイナー等と意見交換するミーティングを開催(政策デザイン「共考」)するほかナッジの考え方や発想を活用したアイデアを得る相談会やセミナーを開催												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況		・佐賀県(さがデザイン):外部のデザイナーやクリエイター、コンサルタント等とのネットワークを構築し、事業・施策の相談窓口として福祉、教育、産業などあらゆる部局にわたるプロジェクトにデザインの視点を導入				

ふくい政策デザイン推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	3,484				3,484							
[予算額の推移等]												(単位:千円)
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		2,554	4,225	2,523	2,325	3,484	・県政課題の洗い出しから事業化までクリエイターが伴走する政策デザイン「共創」の実施による増額					
2月現計予算額の推移		2,554	3,250	2,028	2,325							
決算額の推移		2,257	2,770	1,495								
前年度までの主な増減理由		R4:政策ナッジに関する経費を増額、政策デザインミーティング経費を減額 R6:政策ナッジに関する経費を減額										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	「政策デザイン」相談を経た事業のブラッシュアップ件数 (目標) (10) 実績 10	(10)	(10)	(10)	(15)	(15)	(10)	(15)	相談件数のうち約1／3程度について、仕様設定の段階から事業をブラッシュアップして執行			
活動指標	「政策デザイン」相談件数 (目標) (30) 実績 26	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	県民参加型の政策で、これまでとは異なる発想や新たなアイデアを必要とする事業を各部局3件程度			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・クリエイターとの相談ワークショップ等を行い、事業のブラッシュアップ件数はR7. 2時点で15件となり、成果指標は達成見込み。 ・相談内容は具体的な予算の執行方法(周知媒体・方法等)に関するものが多かった。					・予算要求前からクリエイターと伴走して大きな成果につなげるためにも政策デザイン「共創」を展開(年2件)				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									□ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

政策立案のためのデータ分析・調査研究事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託			□ 補助金								
補助率	－			□ その他								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕				関連する県の計画等	〔 〕						
[解決すべき問題・課題] ・東京一極集中や婚姻数・出生数の減少、新型コロナ禍を経た新たなライフスタイルへの対応などの地方創生・人口減少対策 ・県民の幸福実感、ウェルビーイング向上						[問題・課題を表す客観的データ] 出生率:H26:1.55 ⇒ H30:1.67 ⇒ R1:1.56 ⇒ R2:1.61 ⇒ R3:1.57 ⇒ R4:1.50 ⇒ R5:1.46 社会減:H26:△2,246人 ⇒ H30:△2,159人 ⇒ R1:△2,832人 ⇒ R2:△2,308人 ⇒ R3:△2,096人 ⇒ R4:△2,531人 ⇒ R5:△2,607人						
[事業目的] データ分析スキルをもつ外部人材やデータ分析、地域活性化等を学ぶ大学生を活用し、福井県をフィールドとした人口減少の実態などの調査分析およびデータに基づく効果的な対策の提案を受けることにより、EBPMの手法に基づく新たな政策を立案・実行する。												
[事業内容] (1)人口減少対策に関する本県特有の要因や構造的課題の調査分析、分析データや国内外の事例を踏まえ、解決策等の提案 (2)幸せ実感・ウェルビーイング向上のための調査分析、政策推進モデルの構築に向けた共同研究の実施												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 人口減少対策データ分析・調査事業 (実績) ○横浜市立大学(R2～R5年度) 自然減・社会減に関するデータ分析の結果を踏まえ、自然減、社会減対策に関する政策提言を ○福井県立大学(R2年度) 社会減に関するデータ分析・アンケート調査を実施し、政策提言を実施					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

政策立案のためのデータ分析・調査研究事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	4,500	2,250			2,250		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移						4,500	4,500					
2月現計予算額の推移						4,500						
決算額の推移												
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	政策提案	(目標) 実績				(4) 4	(4)	(4)	(4)	年1件×4団体を想定		
活動指標	大学などと連携した調査分析の件数	(目標) 実績				(4) 4	(4)	(4)	(4)	年1件×4団体を想定		
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点			事業評価			
・4つの大学との共同研究等を実施し、成果指標および活動指標ともに目標を達成した。						－			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									■ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

政策企画調整費

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営							□ 補助金				
補助率	－							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕				関連する県の計画等		〔 〕					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
県政の課題への対応や新たな政策立案を迅速に実施していく必要がある												
[事業目的]												
新たな情報収集と政策づくりの仕組みの構築や政策参事会などでの部局横断的な検討の推進等により、政策課題の解決や全国のモデルとなる先進施策を立案する。												
[事業内容]												
(1)政策企画コーディネーターの活用 ・ビジネスや地域づくり、最新技術等の分野の最前線で活躍する人材を委嘱し、適時の情報提供と企業等とのマッチング、調査依頼への対応などを実現する 新たな情報収集と政策づくりの仕組みを構築 (2)政策会議 ・各分野における県内外の有識者・第一人者をリストアップし、知事・部局長等が機動的に意見交換。提言を踏まえて新施策・事業を立案・実行 (3)政策参事会 ・部局横断型の政策参事会により、新施策・事業を立案・実行												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 政策推進マネジメントシステム強化事業 (実績) 政策アドバイザーなど有識者との意見交換や部局横断の政策参事会における政策検討により、新政策の立案・事業化を推進					関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

政策企画調整費

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史
事業主体	県				事務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		☒ 実行予算 ☐ 補助金 ☐ その他	事業 開始 年度 R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度) R7 年度	
事業実施方法	直営										
補助率	－										
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	6,000				6,000						
[予算額の推移等] (単位:千円)											
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移		6,000	6,000	6,000	6,000	6,000					
2月現計予算額の推移		6,000	5,023	4,332	2,438						
決算額の推移		4,793	4,584	3,340							
前年度までの 主な増減理由											
[成果指標等の推移]											
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	(目標) 実績								課題に対応するための意見交換等を実施する事業であり、目標の設定にそぐわない。関係部局と連携し、政策課題を解決する施策立案に努める。		
活動指標	(目標) 実績								課題に対応するための意見交換等を実施する事業であり、目標の設定にそぐわない。関係部局と連携し、政策課題を解決する施策立案に努める。		
[事業の評価]											
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点			事業評価			
・政策企画コーディネーターのもつ人脈を活かして、都市圏のイベントプロデューサーと魅力創造課が連携した都内のホテルにおける県内のレストランとのコラボレーションイベントや、軽井沢の美術館と県立美術館の連携による企画展の実施などを実現。					－			☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
								☒ 継続	☐ 休止	☐ 完了	
								☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

先進技術活用による地域開発プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県、民間企業				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託、補助					□ 法定受託事務			■ 補助金			
補助率	1/2								□ その他			
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕				関連する県の計画等		〔 〕					
[解決すべき問題・課題] 地域課題が年々高度化・複雑化しており、行政内部のリソースのみでは対応困難なため、民間企業との連携強化が必要。						[問題・課題を表す客観的データ]						
[事業目的] 県市町等と相互に連携して地域課題を収集し、民間企業の先進技術やノウハウを活用して地域課題解決を図り、地域活性化へと繋げる。												
[事業内容] ・民間ノウハウを活用した地域課題解決を通じ、地域活性化を図る。 民間企業から自社の有する技術をもとに、自由な発想で地域課題の解決に向けた提案を募集(テーマは自由)												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	・民間ノウハウを活用して解決したい地域課題について、各市町の企画部局に対し照会して収集					他県の状況		・愛媛県 トライアングルエヒメ(デジタル実装TYPE+公募型DX) ・広島県 The Meet(広島Sand Box事業の1つ)				

先進技術活用による地域開発プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県、民間企業				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託、補助					□ 法定受託事務			■ 補助金					
補助率	1/2								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	33,764				33,764									
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移						32,902	33,764	・事務局委託費の増額						
2月現計予算額の推移						27,647								
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	地域課題解決数(実装件数)	(目標) 実績				(3)	(3)	(3)	(3)	プロジェクト採択件数の半数				
活動指標	プロジェクト補助金採択件数	(目標) 実績				(6) 6	(6)	(6)	(6)	R6:課題解決枠 3件、自由提案枠 3件 R7:自由提案枠 6件				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
・プロジェクト採択件数は当初想定通り6件となり、活動指標は達成した。 ・現在各市町等で実証事業を行っており、地域課題解決数は令和7年2月末時点で3件着地の想定であり、成果指標は達成見込み。						—				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
										☒ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

令和6年度全国知事会議福井開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	委託					□ 補助金						
補助率	－					□ 法定受託事務		□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕					関連する県の計画等		〔 〕				
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
令和6年度全国知事会の円滑な開催												
[事業目的]												
北陸新幹線福井・敦賀開業の年に合わせて都道府県知事などの多くの関係者が参加する「全国知事会議」を福井県で開催し、歓迎行事、開催県PR等を通して、来県者に本県の魅力を発信する。												
[事業内容]												
日 程： 令和6年7月31日(水)～8月2日(金) 参加人数： 会議関係者等 400人程度												
手配・遂行を担う業者への業務委託 ① 本業務を推進するに当たって必要な運営管理 ② 参加者入力フォームの作成及び運用 ③ 宿泊施設の手配等 ④ 参加者等の送迎手配 ⑤ プレイバントの実施 ⑥ 意見交換会等の実施 ⑦ 会議運営支援 ⑧ 記念撮影(於フェニックスプラザ)の実施 ⑨ PRブースの設置等による福井県PRの実施												
[受益者] 会議参加者						[想定される受益者数] 約450人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況		R 5年度： 山梨県開催 R 4年度： 奈良県開催 R 1年度： 富山県開催 ※R2～3年度はWeb開催				

令和6年度全国知事会議福井開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県				事務 区 分	■ 自 治 事 務		事業 区 分	■ 実行予算		事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額														
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当 初 予 算 額 の 推 移						17,000	－							
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						14,754	－							
決 算 額 の 推 移							－							
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標) 実績									全国知事会の開催費用であるため、指標の設定は困難				
活動指標	(目標) 実績									全国知事会の開催費用であるため、指標の設定は困難				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
・全国知事会議を円滑に開催し、歓迎行事、開催県PR等を通して、来県者に本県の魅力を発信することができた。					－					□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										□ 継続	□ 休止	■ 完了	17,000	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

令和7年度将来世代応援知事同盟サミット 福井開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	委託							□ 補助金				
補助率	－							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営					関連する県の計画等						
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
令和7年度 日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットの円滑な開催												
[事業目的]												
日本創生のための将来世代応援知事同盟が「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットinふくい」を開催するにあたり、来県知事へ県の魅力を発信するため、手土産などのおもてなしを実施												
[事業内容]												
日 程:令和7年5月22日(木)～23日(金) 参加人数:会議関係者、一般等 300人程度 事業内容:福井県を代表する観光地のPRや歓迎行事、参加知事への記念品												
[受益者] 会議参加者						[想定される受益者数] 約300人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況		R6年度:宮崎県 開催 R5年度:岩手県 開催 R4年度:福島県 開催 R3年度:広島県 開催 R2年度:コロナの為Web開催				

令和7年度将来世代応援知事同盟サミット 福井開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	■ 実行予算		事業 開始 年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	358				358									
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当 初 予 算 額 の 推 移							358							
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移														
決 算 額 の 推 移														
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標) 実績									サミット開催費用であるため、指標の設定は困難				
活動指標	(目標) 実績									サミット開催費用であるため、指標の設定は困難				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
－					－					☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
										☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

ふくいブランド戦略推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R11 年度
事業実施方法	直営、委託			□ 補助金								
補助率	－			□ その他								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 5 ともに進める(総合力) 〕 政策〔 17 「チームふくい」の行政運営 〕				関連する県の計画等	〔 〕						
[解決すべき問題・課題] 県のブランド発信に際し、控えめな県民性から福井に対するネガティブな紹介を行うなど、関係人口増加の機会を逸することも少なくない。						[問題・課題を表す客観的データ]						
[事業目的] 令和5年度に定めた福井県ブランド戦略の活動方針「千年文化を未来へ」のもと、福井の良さを語り、学ぶことで地域の自己肯定感を高めるような県民参加型のプロジェクトを実施し、県民のふるさとへの自信と誇りを醸成することにより官民あげたブランド展開(「福井がいま、おもしろい!」という前向きで明るい地域イメージの形成)につなげていく。												
[事業内容] ○概要 ・ふくいの歴史、文化、自然、産業、日本一のくらしの良さなど、ふくいの千年文化(福井のよさ)や、福井の中にある「最高」を題材とした中学生対象のクイズ大会を開催。大会をYouTubeライブ配信することで県民が福井の良さを再発見するきっかけとする。 ○ねらい ・幅広い世代に対してクイズ大会の様子を発信(ライブ配信、SNS等)することにより、福井の明るく前向きなイメージを形成・発信し、より多くの県民の自信と誇りを醸成する。 ・クイズの内容や福井の知ってほしいモノやコトを一般公募することで、県民や県内事業者を広く巻き込み、事業の訴求範囲を広げる。 ・参加者は福井の良さを学んで語るプログラムや、交流会を通じて福井を知り同世代とのつながりをつくることで、福井への愛着を高め自信と誇りを醸成する。 ○時期 7月末～8月(夏休み期間) ○参加者 県内中学生 1,000名程度 (3名1チーム) ○開催形態等 ・予選となる第1回戦、決勝大会となる第2回戦を開催 ・第2回戦終了後、同世代のつながり作りを応援するため参加者による交流会を開催												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

ふくいブランド戦略推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R5 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R11 年度
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	11,563				11,563									
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移					31,000	12,850	11,563							
2月現計予算額の推移					31,000	12,850								
決算額の推移					29,060									
前年度までの 主な増減理由		R6:プロジェクト実施件数減に伴う減額												
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	「住んでいる地域を県外の方に 自信をもっておすすめできる」 県民の割合(%)	(目標) 実績			(30) 30.1	(32) 30.5	(34)	(35)	(40)	県民アンケート「住んでいる地域を県外の方に自信をもっておすすめできる」4点以上の回答割合				
活動指標	民間企業等と連携したプロジェクト件数	(目標) 実績			(4) 4	(2) 2	(1)	(1)	(1)	ブランド戦略に基づき、民間企業や県内外のクリエイターとの連携により企画・実施したプロジェクトの数				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
<事業による要因> ・各プロジェクトへの参加者は限定的であり、県内全域の機運醸成には不十分であったため、令和6年7月実施の県民アンケート「県外客に自信をもったPRができるか」の指標で、成果目標の32%は達成できなかった。					・プロジェクトを一本化し、より多くの県民が参加できるプロジェクトを実施することで、前向きで明るい地域イメージの形成を加速させる。 ・県外に出ようかどうかを考える前(高校進学前の中学生時期)に「福井の良さ」を知り、同世代とのつながりを作る機会を設けることで、より若い頃から福井県への愛着醸成をねらう。					□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										■ 継続	□ 休止	□ 完了		
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

幸福実感推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課		課長名	松村 仁史
事業主体	県				事 務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	■ 実行予算 □ 補 助 金 □ そ の 他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分 野 [5 ともに進める(総合力)] 政 策 [17 「チームふくい」の行政運営]				関連する県の計画等		[]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
県民一人ひとりの多様な幸せ実感												
[事業目的]												
官民共創による組織「はびねすクリエイション(仮称)」を設置するとともに、民間の知見・ノウハウを有するウェルビーイングコーディネーターを増員し、県民の幸福実感を高めるプロジェクトの推進と進化を図る。												
[事業内容]												
(1)官民共創により県民のウェルビーイング向上を図る組織「はびねすクリエイション(仮称)」の設置 ・大学によるウェルビーイング向上の活動の基礎となるエビデンスの研究 ・アンケートを通じた県民自身がウェルビーイングを考えるきっかけづくり ・ウェルビーイング向上の先進的な実践プロジェクトの実施 (2)民間の視点を有するウェルビーイングコーディネーターの配置(2名(継続1、新規1)) ・県内外の企業・大学などの連携先の開拓 ・県民の幸福実感を高めるプロジェクトの企画・実行												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

幸福実感推進事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史		
事業主体	県				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補 助 金 □ そ の 他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度	
事業実施方法	直営、委託												
補助率	－												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	14,549	2,466			12,083	国庫:新しい地方経済・生活環境創生交付金 一般財源のうち9,617千円は特別交付税措置あり(地域おこし協力隊)							
[予算額の推移等] (単位:千円)													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移						3,892	14,549	・官民共創拠点の設置による増額 ・ウェルビーイングコーディネーター1名増員による増額					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						2,719							
決 算 額 の 推 移													
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県民の主観的幸福度	(目標) 実績				(7.0) 7.0	(7.1)			県民アンケートにおける県民の主観的幸福度の平均 「現在、あなたは幸せですか。」に0(とても不幸せ)～10(とても幸せ)の1 1段階にて回答			
活動指標	民間企業等と連携した幸せ 実感プロジェクトの企画	(目標) 実績				(5) 6	(5)			ウェルビーイングコーディネーターが中心となり、民間企業等との連携によ り企画・実施したプロジェクトの数			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・10月から、ウェルビーイングコーディネーターを委嘱。活動指標である 民間企業等と連携した幸せ実感プロジェクトの企画は6件と目標を達成 できた ・成果指標である県民の主観的幸福度も7.0と目標を達成したものの、 さらなる向上に向け、体制強化が必要						・県民自らが幸福実感を高める実践を推進するため、官民共 創の組織を設置 ・県内外の企業・大学などと連携したプロジェクトをさらに推 進するため、ウェルビーイングコーディネーターを1名増員				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

首都圏・関西圏における交流拡大事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史														
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度													
事業実施方法	直営							□ 補助金																	
補助率	－							□ その他																	
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 11 ふくい型移住・定住の促進 〕				関連する県の計画等		〔 〕																		
[解決すべき問題・課題] ・北陸新幹線開業効果の最大化・持続化のため、積極的に露出を高め知名度を向上させる必要がある。また、福井県出身の経営者や若者のネットワークを強化し、関係人口の創出が必要。 ・フリーランス向けのUIターンや、IT企業向けのサテライトオフィス誘致を展開したいが、本県とゆかりのない企業等には接点がないため説明の機会を逃している。						[問題・課題を表す客観的データ] 魅力度ランキング31位																			
[事業目的] 福井への企業誘致、観光誘客、UIターンや販路拡大につなげるため、首都圏・関西圏における企業・マスコミ等や県内出身学生とのネットワーク強化を図る。																									
[事業内容] (1)コミュニティ型ワークスペースを活用した人的ネットワークの構築 (2)福井県勤務経験者や福井県出身学生等と協力した福井県の魅力発信 (3)福井県出身学生の交流会の開催、若者発信活動へ支援																									
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人																			
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)																	
市町との連携状況	コミュニティ型ワークスペースで開催するサテライトオフィス説明会や販路拡大等の県主催イベントに各市町にも参加を呼びかけ、協働して福井をPRする。					他県の状況		大阪のコミュニティ型ワークスペースには、本県以外に茨城県、神奈川県、静岡県、愛知県、兵庫県が入居しているほか、政令市を中心に9市町が入居しており、情報交換等を行っている。																	

首都圏・関西圏における交流拡大事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	3,091				3,091									
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移			5,801	5,932	3,161	3,161	3,091	・若者による本県の魅力発信への支援にかかる経費の削減						
2月現計予算額の推移			3,702	4,416	3,161	3,161								
決算額の推移			2,993	3,705	3,037									
前年度までの 主な増減理由		R4:拠点契約料の見直しによる減額、オンライン名刺管理システム導入に伴う増額 R5:拠点契約料の見直しによる減額☒												
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	企業立地を検討する企業等との個別面会・商談、市町への紹介件数	(目標)	(90)	(90)	(90)	(30)	(30)	(36)	(45)	R5以前 東京事務所60件、大阪事務所30件 R6以降 大阪事務所30件(東京事務所拠点契約解除のため)				
		実績	24	55	119	49								
活動指標	福井県勤務経験者や県出身学生とのネットワーク構築	(目標)	(200)	(200)	(200)	(200)	(200)	(240)	(300)	東京事務所100人、大阪事務所100人				
		実績	59	125	302	271								
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
・Weworkでのイベントに参加し、大手企業やベンチャー企業などと交流を行った。また、イベントや交流拠点において福井県の情報発信を行うことで、興味をもった企業と福井県との接点を創出。 ・若者ネットワークは再構築されつつあり、交流会の開催、イベント出展などにより目標を超えて達成。					・若者ネットワークの活性化に向け、若者が主体となった交流会の開催やイベント出展、情報発信など継続して支援を行う。					□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										■ 継続	□ 休止	□ 完了		
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

首都圏北部をターゲットとした巡回キャラバン事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等	〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 首都圏北部における福井県の認知度が低い 新幹線開業時における誘客数の増加						[問題・課題を表す客観的データ] 魅力度ランキング31位						
[事業目的] 首都圏北部各地で福井県関連の物産展およびイベントへの出展を実施することにより、継続的に福井県の魅力を発信し、認知度を高めるとともに具体的な誘客促進を図る。												
[事業内容] [対象地域]埼玉県、群馬県、長野県、宮城県 [期 間]令和7年7月頃から令和8年3月まで [手 法]地元メディア(地方新聞社、地方テレビ局)、SNSのインフルエンサー、福井県アンテナショップの物販部門と連携し、 首都圏北部各地で継続的に福井関連の観光物産展、地域イベントへの出展等を実施 [方 針]① 地元メディアと連携して具体的な誘客につながる施策を強化 ② 首都圏北部の地元メディアやインフルエンサーとの関係を強化 ③ 福井県アンテナショップと連携												
[受益者] 首都圏北部4県(埼玉県、群馬県、長野県、宮城県)の在住者						[想定される受益者数] 約1,360万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 首都圏・東北地域での誘客プロモーション事業 (役割分担) 新幹線開業課は、新幹線停車駅構内において実施(大規模) 東京事務所は、首都圏北部のショッピングセンターや地域イベントにおいて実施				
市町との連携状況	・本事業にて実施した「まるまるひがしにほん」での物産展では、7市町のPRブースを設置(福井市、敦賀市、小浜市、大野市、あわら市、越前市、美浜町)					他県の状況		魅力度ランキング 石川県 10位 富山県 19位				

首都圏北部をターゲットとした巡回キャラバン事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史				
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R4 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度	
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務			□ 補助金						
補助率	－								□ その他						
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等								
予算額	47,037				47,037										
[予算額の推移等] (単位:千円)															
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移				80,686	84,266	47,037	対象地域の減および民間企業へのノベルティ配布経費の減								
2月現計予算額の推移			34,851	80,686	84,266										
決算額の推移			34,851	76,052											
前年度までの 主な増減理由		R5:事業期間の拡大による増額													
[成果指標等の推移]															
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	マスコミ等による露出度 (人)	(目標) 実績	(5,000,000) 10,060,000	(10,000,000) 18,140,000	(18,140,000) 20,000,000	(10,000,000)			地方紙4紙(120万人)×2回掲載、地元TV局4局(100万人)×1回 大宮駅5万人×24日、SNS200万リーチ 等						
活動指標	イベント等開催回数(回)	(目標) 実績	(10) 11	(15) 15	(10) 15	(8)			4県×年2回						
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価							
・地方紙への複数回掲載、地元テレビ局の取材、イベント主催団体の公式SNSによる投稿、デジタルサイネージによる広告などにより成果目標を上回って達成した。活動指標も目標を達成。				・特に効果の高かった北陸新幹線沿線3県(埼玉県・群馬県・長野県)および宮城県にて、地方紙や地元テレビ局と連携する。また、スポーツイベントについてブローウィングズなど地元チームが首都圏北部でアウェイゲームを行う際に出展することとしている。				□ 拡充		■ 縮減		□ 終期の見直し		見直し額	
								□ 継続		□ 休止		□ 完了		37,229	
								□ 整理統合		□ 廃止		□ その他			

北陸新幹線開業首都圏キャンペーン事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R5 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営、委託			□ 補助金								
補助率	－			□ その他								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化				関連する県の計画等			〔 ネクストふくい観光ビジョン				
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
新幹線開業後の外国人観光客の誘客増加						魅力度ランキング31位						
[事業目的]												
北陸新幹線開業後にJR東日本が行うプロモーションと連携した福井県キャンペーンを行うことにより、相乗効果による首都圏での認知度の向上・誘客につなげる。												
[事業内容]												
(1)JR東日本が行う開業キャンペーンの強化・支援(JR東日本管内の駅施設のふくいデコレーション) (2)JR東日本主要駅への「飛び出す恐竜ポップアップディスプレイ」の展示 (3)JR東京駅「スクエア・ゼロ」へ令和5年度から設置している福井県シンボルの掲出												
[受益者] 首都圏在住者						[想定される受益者数] 約2,900万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 首都圏・東北地域での誘客プロモーション事業、首都圏北部をターゲットとした巡回キャラバン事業 (役割分担) 新幹線開業課は、新幹線停車駅構内において実施(大規模) 東京事務所は、首都圏北部のショッピングセンターや地域イベントにおいて実施し、あわせてJR東日本と連携したキャンペーンを実施				
市町との連携状況						他県の状況		魅力度ランキング 石川県 10位 富山県 19位				

北陸新幹線開業首都圏キャンペーン事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史			
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R5 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額														
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移						5,143	－							
2月現計予算額の推移					34,062	5,143	－							
決算額の推移					33,154		－							
前年度までの 主な増減理由		R6:アドトレイン運行にかかる事業費減												
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	恐竜オブジェ等の広告接触者数(人) (目標) 実績				(10,000,000) 12,500,000	(10,000,000) 28,000,000				東京駅における接触者数(上半期想定) JR東日本各駅でのデコレーションキャンペーン(100駅想定)				
活動指標	恐竜オブジェの掲出(回) (目標) 実績				(1) 1	(1) 1				東京駅における掲出(上半期想定) JR東日本各駅でのデコレーションキャンペーン(100駅想定)				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
・JR東京駅での「越前和紙恐竜オブジェ」の掲出を継続し、JR東日本各駅での恐竜デコレーションキャンペーンを実施した結果、成果指標、活動指標ともに達成。					－					☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
										☐ 継続	☐ 休止	☒ 完了	5,143	
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

県産商品を活用した海外誘客促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等	〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線開業後の外国人観光客の誘客増加						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年度 外国人延べ宿泊者数 10,790人/泊 (うちシンガポール 330人/泊)						
[事業目的] 既存商品の高付加価値化を行い、シンガポールにおいて販売するとともに、福井県の観光情報の発信や旅行商品の販売等を合わせて行うことにより、「モノ」を起点としたインバウンドの増加につなげる。												
[事業内容] (1)県産商品の開発およびシンガポールにおける販売 (2)シンガポールにおける福井県観光情報の発信および旅行商品の販売等												
[受益者] シンガポールからのインバウンド客						[想定される受益者数] 約75万人・泊(令和4年宿泊旅行統計調査)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 北陸3件連携事業 (役割分担) 東京事務所においてインバウンド促進を図り、流通販売課において販路開拓を行う。実施に当たっては相互連携を図る。				
市町との連携状況						他県の状況						

県産商品を活用した海外誘客促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	9,400	4,700			4,700		新しい地方経済・生活環境創生交付金					
[予算額の推移等]												(単位:千円)
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当 初 予 算 額 の 推 移						9,200	9,400					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移						9,200						
決 算 額 の 推 移												
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	外国人宿泊客数(人) (※暦年)	(目標) 実績				(400,000)	(400,000)	(400,000)	(400,000)	令和11年 40万人(ふくい観光ビジョン)の内数 実績は令和7年6月頃に公表が見込まれる宿泊旅行統計調査により算定		
活動指標	福井フェア開催数(回)	(目標) 実績				(1) 1	(1)	(1)	(1)	シンガポールでの福井フェアの開催回数		
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点			事業評価			
・ルミネシンガポール店にて福井フェアを8月に開催。また、同時期にJR東日本のインバウンド拠点施設である「JAPAN RAIL CAFE」シンガポール店において観光情報の発信・旅行商品の販売を行い、活動指標を達成。 ・成果指標について現時点では不明だが、シンガポールでの福井フェアにより、昨年度に比べて外国人宿泊者数の増加が見込まれる。						・引き続き、シンガポールにおいて伝統工芸品等を中心とした福井フェアを開催し、「モノ」を起点としたインバウンド促進に努める。なお、開催にあたっては商品開発を見直し、職人を現地に招聘するなど、より商品の魅力を伝えられるよう配慮する。			□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									■ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

首都圏在日外国人をターゲットとした誘客促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等	〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
北陸新幹線開業後の外国人観光客の誘客増加						令和4年度 外国人延べ宿泊者数 10,790人/泊						
[事業目的]												
東京の地域性を活かし、大使館訪問や在住外国人コミュニティへのアプローチを行うことにより、本県への首都圏在住外国人の誘客を促進し、インバウンドの増加につなげる。												
[事業内容]												
(1)大使館への訪問およびイベントブース出展 (2)在日外国人向け雑誌等への記事掲載や外国語版チラシの作成												
[受益者] 首都圏在住外国人						[想定される受益者数] 約154万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

首都圏在日外国人をターゲットとした誘客促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	未来創造部	課名	未来戦略課	課長名	松村 仁史	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補 助 金 □ そ の 他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	6,384	3,192			3,192	新しい地方経済・生活環境創生交付金						
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移					5,225	6,384	イベントブース出展回数増による増額					
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					5,225							
決 算 額 の 推 移												
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	外国人宿泊客数(人) (※暦年) (目標) 実績				(400,000)	(400,000)	(400,000)	(400,000)	令和11年 40万人(ふくい観光ビジョン)の内数 実績は令和7年6月頃に公表が見込まれる宿泊旅行統計調査により算定			
活動指標	大使館への訪問数(件) (目標) 実績				(8) 23	(23)	(31)	(31)	訪問した大使館、在京海外機関の機関数			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・大使館、在京海外機関への訪問について活動指標の目標値を大きく超えて達成。 ・また成果指標については現時点では不明だが、在日外国人向けイベントへ出展、在日外国人向けWEBサイトでの情報発信等を行っており、昨年度に比べて外国人宿泊者数の増加が見込まれる。					・引き続き、在日外国人向け媒体でのPR、招聘ツアーを行うとともに、イベントブース出展回数を3回に増加、福井県概要チラシの対応言語数を3言語追加し、首都圏在住外国人へのアプローチを強化していく。				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
									■ 継続	□ 休止	□ 完了	
									□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

嶺南振興プロジェクト枠予算

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	藤原 則夫		
事業主体	県・市町				事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		事業区分	☒ 実行予算 ☒ 補助金 ☐ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託、補助												
補助率	1/2												
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 行財政改革アクションプラン、福井県高速交通開通アクション・プログラム 〕						
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井・敦賀開業の効果を敦賀以西へと波及促進させるため、また大阪までの早期全線開業に向け、嶺南振興局が果たす役割がこれまで以上に高まる中、観光や地域振興、交通体制の整備など、嶺南地域の様々な課題への総合的な対応が必要						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が少ない。 R5観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 9,440千人(28.5%) 福井県全体 33,179千人							
[事業目的] 北陸新幹線福井・敦賀開業の効果を敦賀以西へと波及促進させるため、さらには大阪までの早期全線開業等に向けて、嶺南振興局が独自の予算を持つことにより、観光振興等の地域課題に対し、迅速に対応する。													
[事業内容] (1)ハード枠 これまで安全安心を最優先にしてきたため充分な対応ができていなかった観光地周辺の道路補修や景観整備等を嶺南振興局長の権限で執行 (2)政策トライアル枠 嶺南振興局長の権限において試行できる枠予算で、成果を踏まえ、次年度の新規事業を立案													
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)							
前事業の有無・実績	☒ 無 ☐ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		☐ 無 ☒ 有 事業名 土木部枠県単 (役割分担) 土木部枠県単は安全安心を最優先し、事業を実施する。嶺南振興プロジェクト枠では、北陸新幹線の大阪までの早期前線開業等に向け、対応できていなかった観光地周辺の道路補修や景観整備事業等を実施する。						
市町との連携状況	関係市町から意見を聞くなど、連携しながら事業を実施している。				他県の状況		・岡山県 ハード枠 3.1億、ソフト枠0.15億(補助あり) ・鹿児島県 ハード枠 0.8億(補助)、ソフト枠0.2億(補助あり) など						

嶺南振興プロジェクト枠予算

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	一部外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	藤原 則夫	
事業主体	県・市町				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営、委託、補助											
補助率	1/2											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	160,000				160,000							
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		160,000	160,000	160,000	160,000	160,000						
2月現計予算額の推移		160,000	160,000	160,000	155,187							
決算額の推移		158,589	157,159	152,038								
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	【トライアル枠】 政策トライアル枠予算の活用を 反映した事業数 (目標) 実績	2	2	1	1				新しい施策にいち早くチャレンジして取り組めるよう、振興局長の権限において試行できる枠予算であり、目標の設定にそぐわない。			
活動指標	【ハード枠】 実施件数 (目標) 実績	19	18	24	22				観光振興等の地域課題に迅速に対応するための事業であり、目標の設定にそぐわない。市町の意見等を聞きながら観光地周辺の道路修繕や景観整備等を実施し、魅力向上等に努めたい。			
	【トライアル枠】 政策トライアル枠予算を活用した事業数 (目標) 実績	5	4	2	3				新しい施策にいち早くチャレンジして取り組めるよう、振興局長の権限において試行できる枠予算であり、目標の設定にそぐわない。			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
ハード枠については、観光地周辺の道路補修や景観整備等を実施した。政策トライアル枠については、主に観光振興の事業を実施し、令和6年度当初予算において1件の新規施策(新規事業1件)に繋がった。					引き続き、嶺南市町の様々な要望や意見等を聞きながら、柔軟に対応していく。				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
									☒ 継続	☐ 休止	☐ 完了	
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

2024嶺南誘客キャンペーン開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	藤原 則夫	
事業主体	実行委員会				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R4 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	負担金							☐ 補助金				
補助率	－							☒ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを上げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ 〕					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線敦賀開業の効果を最大限に活かすため、当面の終着駅である敦賀駅で降りた新幹線客を嶺南全域に誘客するための施策が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が少ない。 R5観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 9,440千人(28.5%) 福井県全体 33,179千人						
[事業目的] 令和6年3月北陸新幹線敦賀開業にあわせ、嶺南全域(敦賀以西)に誘客を図るため、「青々吉日TSURUGA WAKASA」周遊キャンペーンを嶺南市町等と一体となって開催する。												
[事業内容] 令和4年度に実行委員会を立ち上げ、令和6年3月のキャンペーン開催に向けて準備を行う。 【令和4年度】実行委員会の開催(年6回)、企画募集、基本計画の策定 【令和5年度】広報宣伝・開催準備、キャンペーン開催 【令和6年度】「青々吉日TSURUGA WAKASA」周遊キャンペーンの開催・運営												
[受益者] 観光客						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	・実行委員会の委員として県と共に事業を実施。					他県の状況						

2024嶺南誘客キャンペーン開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	若狭企画振興室	課長名	藤原 則夫	
事業主体	実行委員会				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	☐ 実行予算	事業 開始 年度	R4 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	負担金							☐ 補助金				
補助率	－							☒ その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移			5,000	50,000	65,000	－						
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移			5,000	50,000	65,000	－						
決 算 額 の 推 移			5,000	50,000		－						
前年度までの 主な増減理由		R4:基本計画の策定 R5:広報宣伝・開催準備、周遊キャンペーン開催(R6.3～) R6:周遊キャンペーン開催										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	嶺南地域への観光客入込 数(延べ人数)(千人)	(目標) 実績		(10,000) 9,440	(12,000)		(12,000)	(12,000)	嶺南地域への入込数1,200万人を目標 (R元 1,000万人 ⇒ R6 1,200万人(2割増)) ※観光入込客数は毎年6月頃に前年分を公表			
活動指標	サイト閲覧数(PV)	(目標) 実績		(25,000) 78,906	(300,000)		(300,000)	(300,000)	R6.2～ 公式PRサイト(目標 R7.3 :15万PV) R6.2～ 御食国食旅サイト(目標 R7.3 :15万PV)			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
・公式PRサイト、御食国食旅サイト閲覧数 約53万PV(R7.2.18時点) ・「青々吉日TSURUGA WAKASA」を統一コンセプトにしたPR映像や 観光冊子を制作し、各種メディアや屋外広告等でプロモーションを展開 ・周遊観光を促す企画としてデジタルスタンプラリーを実施 約2,700人が参加(R7.2.18時点)					－				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
									☐ 継続	☐ 休止	☒ 完了	65,000
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

「海湖と歴史の若狭路」発信事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	実行委員会				事務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		事業 区 分	☐ 実行予算 ☐ 補助金 ☒ その他	事業 開始 年度	H25 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	負担金												
補助率	－												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ふくい観光ビジョン 〕						
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線県内開業効果の最大化のため、福井や敦賀から嶺南に誘客促進を行う必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] R5年県内観光客入込数 17,598千人 うち、関西地区からの入込数 2,943千人 うち、中京地区からの入込数 1,903千人							
[事業目的] 新幹線開業によって新たに生じる誘客チャンスに対応するため、誘客コンテンツを実施し嶺南地域における開業効果を高める。													
[事業内容] 「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンの実施(実行委員会負担金) ・レンタカーやマイカーを対象とする周遊プランの実施(観光シーズンを中心に実施) ・若狭路城跡めぐりキャンペーンの実施(4～6月) ・観光周遊マップの外国語版製作													
[受益者] 福井県の観光関係事業者(宿泊業、飲食サービス業)						[想定される受益者数] 事業所数 5,477(H26経済センサス)							
前事業の有無・実績	☒ 無 ☐ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・ 役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担)						
市町との連携状況	・実行委員会傘下により共同でイベント、出向宣伝等を実施 ・嶺南6市町と連携した城巡りイベントを実施				他県の状況								

「海湖と歴史の若狭路」発信事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史			
事業主体		実行委員会			事務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		事業 区 分	☐ 実行予算 ☐ 補助金 ☒ その他		事業 開始 年度	H25 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法		負担金												
補助率		－												
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額														
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移			9,000	4,000	4,000	4,000	－							
2月現計予算額の推移			7,756	4,000	4,000	4,000	－							
決算額の推移			2,988	4,000	4,000		－							
前年度までの 主な増減理由			R4:誘客プロモーションに関する事業部分を観光誘客課から新幹線開業課に移管											
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	嶺南地域への観光客入込 数(千人)	(目標)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(12,000)	－	(12,000)	(12,000)	嶺南地域への入込数1,200万人を目標 (R元 1,000万人 ⇒ R6 1,200万人(2割増)) ※観光入込客数は毎年6月頃に前年分を公表				
		実績	6,462	7,732	9,940		－							
活動指標	実行委員会の開催	(目標)	(2)	(2)	(2)	(2)	－	(2)	(2)					
		実績	2	2	2	2	－							
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
・活動指標に関しては目標を達成 ・「海湖と歴史の若狭路」発信事業において、城跡巡りキャンペーンや若狭路ドライブプラン等を実施した。						－				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
										☐ 継続	☐ 休止	☒ 完了	4,000	
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

新幹線二次交通整備等支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内		部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室		課長名	堀田 高史
事業主体	嶺南広域行政組合				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			■ 補助金		経過年数		
補助率	1/2								□ その他		2 年		
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 嶺南地域公共交通網形成計画 ふくい観光ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ 〕						
[解決すべき問題・課題] 敦賀駅から小浜方面に移動できる公共交通は小浜線に限定されており、駅から観光地への移動手段の確保、利便性向上が課題である。						[問題・課題を表す客観的データ] ・令和4年度の小浜線ダイヤ改定により運行便数が減少した。 ・駅から観光地への移動手段として週末に利用しやすいバス路線が少ない。							
[事業目的] 小浜線を補完する直行バス等の試験運行を支援し、移動の利便性を検証する。													
[事業内容] JR小浜線の空白時間の補完を目的とするJR敦賀駅から小浜、おおい、高浜方面への直行バス等の運行を支援													
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)							
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況							

新幹線二次交通整備等支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	嶺南広域行政組合				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	☐ 実行予算	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金				
補助率	1/2								☐ その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額													
[予算額の推移等] (単位:千円)													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移					4,347	20,400	—						
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移					4,347	14,687	—						
決 算 額 の 推 移					2,857		—						
前年度までの 主な増減理由		R6:運行期間、運行本数の増による増額											
[成果指標等の推移]													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	嶺南西部への観光入込客 数(千人)	(目標) 実績			(実証) 3,096	(4,500)		(4,500)	(4,500)	令和5年度は実証のため、成果目標の設定はなし 嶺南西部(小浜・おおい・高浜)への入込客数を450万人に増やす。 (R元 376万人 ⇒ R7 450万人(2割増)) ※観光入込客数は毎年6月頃に前年分を公表			
活動指標	運行本数 (本)	(目標) 実績			(48) 48	(375) 442				令和6年度:3本/日×125日間			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価			
敦賀駅西口側へのバス停の追加やお盆期間における増便等の利便性向上のための対策を行ったが、利用者数は1日あたり2.7人と低調に推移したため、事業の継続は困難と判断した。					事業終了年度を前倒しし、令和6年度で終了とする。					☐ 拡充	☐ 縮減	☒ 終期の見直し	見直し額
										☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	20,400
										☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

三方五湖エリア等広域バス運行支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	バス運行事業者				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R3 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	補助							■ 補助金				
補助率	4.5/20							□ その他				
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 福井県三方五湖エリアステップアッププログラム、嶺南地域公共交通計画、ふくい観光『トライ!』 ビジョン、FIRST291～北陸新幹線開業プラン～、福井県高速交通開通アクション・プログラム 〕					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
三方五湖エリアにおける駅からの公共交通がコミュニティバスなどに限られるため、公共交通機関で来県する方々などの移動の利便性向上を図ることが課題である。						観光客に便利な美浜駅、三方駅からの公共交通機関はタクシーのみ コミュニティバスのダイヤ、経路は住民ニーズを想定したものである。						
[事業目的]												
北陸新幹線開業効果を高めるため、個人旅行者の移動手段として三方五湖エリアにおいてゴコイチバスを令和6年3月から本格運行しており、新幹線で来県する観光客の足として誘客促進に効果を発揮している。開業後の敦賀以西への誘客が課題であり、ゴコイチバスの運行を支援し、広域的な周遊促進を図りたい。												
[事業内容]												
(1)バス運行を支援 運行期間:4月から11月の土日祝日に限定(運行日数78日間) 運行経路:敦賀駅 ～ 三方五湖(山頂公園等)												
(2)利用状況調査を支援 乗降調査、利用者アンケート調査												
(3)利用促進対策を支援 外国人観光客の利用促進(チラシの多言語化等) グーグル等経路検索サイトへの登録 等												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

三方五湖エリア等広域バス運行支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	バス運行事業者				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R3 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金				
補助率	4.5/20								☐ その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	3,335	1,667			1,668	新しい地方経済・生活環境創生交付金							
[予算額の推移等] (単位:千円)													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		4,508	5,496	9,494	3,613	3,335	熊川方面への運行の取りやめによる減額						
2月現計予算額の推移		3,543	5,496	9,494	3,613								
決算額の推移		2,940	5,179	9,369									
前年度までの 主な増減理由		R4、R5:運行日数の拡大による増額 R6:補助率の変更による減額											
[成果指標等の推移]													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	1日あたりのバス利用者 (人)	(目標) (実証) 29	(目標) (実証) 24	(目標) (実証) 40	(50) 73	(120)	(249)	(249)	令和9年度以降に民間事業者によるバスの継続的な運行を目指す				
活動指標	運行本数 (本)	(目標) (実証) 162	(180) 248	(248) 369	(392) 719	(567) 719	(468)		令和3年度:9本/日×20日間 令和4年度:8本/日×31日間 令和5年度:7本/日×51日間 令和6年度:7本/日×81日間 令和7年度:6本/日×78日間				
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価					
令和6年度は4月6日から11月24日までの土日祝日に運行し、成果指標である1日あたりのバス利用者数50人を目標を超えて達成した。 運行実績:1日9便80日間(交通規制のため1便運休)				運行経路の見直し 令和6年度: 敦賀駅、美浜駅 → 三方五湖 → 敦賀駅、美浜駅 敦賀駅、美浜駅→三方五湖→熊川宿→敦賀駅、美浜駅 令和7年度: 敦賀駅、美浜駅 → 三方五湖 → 敦賀駅、美浜駅				☐ 拡充	☒ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額		
								☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	278		
								☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他			

レインボーラインにおける混雑情報等発信支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	美浜町・若狭町				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	補助											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ 〕					
[解決すべき問題・課題] レインボーライン山頂公園は、三方五湖のエリアの中心となる観光スポットであり、周辺の観光施設への誘客を牽引している。渋滞が発生するとレインボーライン観光客の周辺施設への周遊が妨げられることが課題である。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和6年度GWには、多くの観光客が訪れ、レインボーラインで最大2.5kmの渋滞が発生した。						
[事業目的] 観光客の訪問時間帯や訪問先の分散を促し、渋滞緩和を図ることができるよう、レインボーラインの混雑情報や周辺の観光施設の情報を発信する表示板の設置を支援する。												
[事業内容] レインボーラインの混雑情報等を発信するための電光表示板の設置に対する支援 [設置場所]若狭美浜IC～日向ゲート区間等 [設置数]2箇所 [配信情報]レインボーラインの混雑情報および周辺観光施設の情報 [運用開始時期]令和7年4月												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

レインボーラインにおける混雑情報等発信支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	美浜町・若狭町				事務区分	■ 自治事務		事業区分	☐ 実行予算	事業開始年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			☒ 補助金				
補助率	1/3								☐ その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額													
[予算額の推移等] (単位:千円)													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移						0	－						
2月現計予算額の推移						1,640	－						
決算額の推移							－						
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	レインボーラインの渋滞発生時間の縮小(時間)	(目標) 実績					(2.0)	(2.0)	(2.0)	渋滞時間の短縮 渋滞時間 R6 5時間→R7 3時間(2時間の短縮)			
活動指標	表示板設置個所数	(目標) 実績				(2) 2		(2) 2	(2) 2	表示板設置個所数			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点			事業評価				
令和6年度は2か所設置し、目標どおり実施						－			☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☒ 完了	1,640	
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

若狭路ご当地弁当を活用した団体旅行誘客事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等	〔 FIRST291～北陸新幹線開業プラン～ 〕						
[解決すべき問題・課題] 嶺南地域では団体旅行の際に大人数が昼食を取れる場所が少なく団体ツアーの造成が制限されている。						[問題・課題を表す客観的データ] 団体旅行で使える昼食施設が3つしかない。						
[事業目的] 御食国の豊かな食材を楽しめるご当地弁当を活用した旅行プランを企画・開発し、新しいスタイルの団体ツアーの造成を促進する。												
[事業内容] (1)昼食プランの造成 (2)旅行会社への売り込み (3)知名度向上のための特設販売 (4)首都圏等での情報発信 (5)PRパンフレットの作成												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 944万人(R5)						
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 嶺南食材を活用した弁当の開発・販売の事業可能性検証(トライアル) 公募により選定した3事業者を対象に、有識者による試食会を重ね、嶺南地域の食材を活用した3種類の「若狭御食国弁当」が完成した。					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

若狭路ご当地弁当を活用した団体旅行誘客事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史			
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額														
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移						1,903	－							
2月現計予算額の推移						1,903	－							
決算額の推移							－							
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	嶺南地域への観光客入込 数(千人)	(目標) 実績				(12,000)		(12,000)	(12,000)	嶺南地域への入込数1,200万人を目標 (R元 1,000万人 ⇒ R6 1,200万人(2割増)) ※観光入込客数は毎年6月頃に前年分を公表				
活動指標	昼食プランの造成件数 (個)	(目標) 実績				(3) 4			(3) 4	昼食プランの造成件数				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
・旅行会社の目線で昼食プランを作成し、モニターツアーで磨き上げを行うことで、旅行商品に組み込みやすい昼食プランを作成することができた。 ・成果指標については、R7年6月頃判明予定						—				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										□ 継続	□ 休止	■ 完了	1,903	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

外国人観光客への敦賀・若狭エリアPR事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕					関連する県の計画等		〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕				
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
外国人観光客が多く訪問する京都府や大阪府に近い立地にあるにも関わらず、福井県に外国人観光客を誘客できていない。						福井県の外国人延べ宿泊者数は64,900人(全国46位) 【観光庁 2023年宿泊旅行統計調査】						
[事業目的]												
京都から嶺南地域を巡り宿泊を促す周遊モデルなどの情報を発信し、外国人観光客の宿泊者数増加につなげる。												
[事業内容]												
(1)旅マエや旅ナカでの発信による京都からの周遊・宿泊促進 ・外国人インフルエンサー等を活用した旅マエPR ・周遊モデルのチラシ作成による旅ナカでのPR (2)京都から嶺南を巡る宿泊旅行商品造成 ・周遊モデルのタリフ化による旅行会社へのPR												
[受益者] 外国人観光客、観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)						
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 京都から嶺南地域を巡る周遊モデル検証事業(トライアル) (実績) 台湾や香港からの訪日旅行を手掛ける旅行会社3社を招聘し、京都から誘客が期待できるポテンシャルがあるとの評価を受けた。また、評価の高い観光地を中心とした京都から嶺南地域を巡る周遊モデルを作成した。	関連事業の有無・役割分担					☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

外国人観光客への敦賀・若狭エリアPR事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度	
事業実施方法	委託					□ 補助金		□ その他					
補助率	－					□ 法定受託事務							
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	7,696	3,848			3,848		新しい地方経済・生活環境創生交付金						
[予算額の推移等] (単位:千円)													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当 初 予 算 額 の 推 移							7,696						
2 月 現 計 予 算 額 の 推 移													
決 算 額 の 推 移													
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	福井県への訪日外国人観光客宿泊者延べ数(千人)	(目標) 実績					(148)	(274)	(400)	福井県への訪日外国人観光客宿泊者延べ数目標 (R11:40万人)			
活動指標	インフルエンサーの投稿に対するエンゲージメント数(件)	(目標) 実績					(2,000)	(2,000)	(2,000)	外国人インフルエンサー2名の投稿に対しそれぞれ1,000件以上のエンゲージメント数(いいねなどの反応数の合計) フォロワー数10万人以上×平均エンゲージメント率1%×2人＝2,000件			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
－						－				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額
										□ 継続	□ 休止	□ 完了	
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他	

SNSを活用した敦賀・若狭エリア宿泊滞在促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史
事業主体	県	事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度		
事業実施方法	委託										
補助率	－										
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕	関連する県の計画等		〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕							
[解決すべき問題・課題] 観光消費額を増加させるためには、観光客に宿泊してもらうことが重要であるが、嶺南地域で宿泊客が最も多い関西の観光客は日帰り率が高い傾向にある。						[問題・課題を表す客観的データ] ・嶺南地域を訪れる関西の観光客は約4.5割が日帰りである。					
[事業目的] 嶺南地域に宿泊した観光客を対象にSNSキャンペーンを実施し、宿泊者目線で宿の魅力をSNSで発信・拡散してもらうことで、関西を中心に関東や中京なども含め、嶺南地域の宿泊者増加を目指す。さらに、SNSでの反響やアンケート結果を分析し、宿泊事業者等に共有することで、宿泊施設のさらなる改修や整備意欲を喚起する。											
[事業内容] (1)敦賀・若狭宿泊SNSキャンペーンの実施 ・嶺南地域での宿泊時に宿の写真をハッシュタグ付きでSNSに投稿すると、抽選で特産品等の景品をプレゼントする。 ・プレゼント応募時に簡易アンケートを実施し、宿泊客の属性やニーズを把握する。 ・SNSでの反響やアンケート結果を分析し、宿泊事業者等に共有することで、さらなる改修や整備意欲を喚起する。 (2)事務局運営 ・LPやチラシ等での広報 ・投稿内容や簡易アンケートの結果分析・取りまとめ ・景品発送											
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)					
前事業の有無・実績	☐ 無 ☒ 有 事業名 観光列車「はなあかり」と連携した嶺南地域への宿泊効果促進検証事業(トライアル) (実績) 「はなあかり」乗車かつ嶺南地域で宿泊する観光客にはぴコインをプレゼントするキャンペーンを実施し、14名がキャンペーンを利用し嶺南地域に宿泊した。					関連事業の有無・役割分担		☒ 無 ☐ 有 事業名 (役割分担)			
市町との連携状況						他県の状況					

SNSを活用した敦賀・若狭エリア宿泊滞在促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	県				事務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	事業 区 分	☒ 実行予算 ☐ 補助金 ☐ その他	事業 開始 年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,531	1,265			1,266	新しい地方経済・生活環境創生交付金						
[予算額の推移等] (単位:千円)												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移						2,531						
2月現計予算額の推移												
決算額の推移												
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	嶺南地域への宿泊割合 (目標) (%) 実績					(50)	(50)	(50)	嶺南地域における関西の宿泊者割合の増加 (R6 40%⇒R7 50%)			
活動指標	SNSキャンペーン参加人数 (目標) (千人) 実績					(12)	(12)	(12)	SNSキャンペーンの参加人数1.2万人 (7,8月の宿泊者のうち、キャンペーンへの参加が見込まれる人数)			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価			
－					－				☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了	
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他	

敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	県、実行委員会				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R10 年度
事業実施方法	委託、負担金											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕				関連する県の計画等		〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線敦賀開業の効果が嶺南全域に十分に波及されておらず、小浜開業を見据えた敦賀以西への観光誘客を推し進める必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が少ない。 R5観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 9,440千人(28.5%) 福井県全体 33,179千人						
[事業目的] 北陸新幹線小浜開業を見据えた誘客の核づくりを目指して、宿泊施設など観光分野における新たな民間投資を呼び込む。民間投資を呼び込むために観光資源の磨き上げや新たな誘客コンテンツの造成、一貫した情報発信による敦賀・若狭エリアのブランド力向上を図る。												
[事業内容] (1)嶺南観光ブランド力向上(夕日スポットの整備事業) 嶺南地域における民間投資(ホテルやオーベルジュ等の誘致)を呼び込むために、新たな誘客コンテンツとして夕日スポットの整備を実施する (2)情報発信(「青々吉日 TSURUGA WAKASA」発信事業) 「青々吉日 TSURUGA WAKASA」周遊キャンペーン終了後も、オール嶺南での誘客体制を維持し、夕日の絶景ポイントや周遊キャンペーンで得られた顧客データなどを有効に活用した情報発信を実施することで、観光客に選ばれる敦賀・若狭を目指して、誘客の拡大を図るとともに情報発信による認知度向上・ブランド力向上を通じて民間投資を呼び込む。 また観光分野のインフルエンサーとして活動した経験と実績が十分な人物を地域おこし協力隊として採用し、嶺南地域の情報発信を実施する。 (3)地域おこし協力隊(敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進コーディネーター事業) 民間投資等に関して専門的な知識を持った人物を地域おこし協力隊として採用し、ブランド力のあるリゾートエリア形成を促進する												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数) 944万人(R5)						
前事業の有無・実績	□ 無 ■ 有 事業名 2024嶺南誘客キャンペーン開催事業 (実績) R4:実行委員会、企画推進委員会の立ち上げ、基本計画の策定 R5:PR動画等のコンテンツ作成、Instagram、公式サイト、食旅サイトによる情報発信などプロモーションを実施 R6:プロモーション、デジタルスタンプラリー等の企画実施					関連事業の有無・役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況	・主に候補地の抽出や地元調整、誘客コンテンツの造成を市町が担っている。 ・観光情報等の発信では、実行委員会の委員として県と共に実施している。					他県の状況						

敦賀・若狭エリアへの新たな観光投資促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史		
事業主体	県、実行委員会				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R10 年度	
事業実施方法	委託、負担金					□ 補助金		□ 法定受託事務					■ その他
補助率	－					□ 法定受託事務		■ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	43,316	17,995			25,321		新しい地方経済・生活環境創生交付金 一般財源のうち7,326千円は特別交付税措置(地域おこし協力隊)						
[予算額の推移等]												(単位:千円)	
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移							43,316						
2月現計予算額の推移													
決算額の推移													
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	嶺南地域への観光客入込 数(延べ人数)(千人)	(目標) 実績					(12,000)	(12,000)	(12,000)	嶺南地域への入込数1,200万人を目標 (R元 1,000万人 ⇒ R7 1,200万人(2割増)) ※観光入込客数は毎年6月頃に前年分を公表			
活動指標	スポット整備件数(件)	(目標) 実績						(3)	(6)	各市町1か所×6市町			
	サイト閲覧数	(目標) 実績					(300,000)	(600,000)	(900,000)	R7.4～ 情報発信サイト(目標 R8.3時点で300,000PV)			
	「青々吉日」Instagram フォロワー数	(目標) 実績					(6,000)	(7,000)	(8,000)	R5.10～ (目標 R8.3時点で6,000)			
	地域おこし協力隊による HPへの取材記事掲載数 (本)	(目標) 実績					(32)	(48)	(48)	R7.8～ 週に1回、月4本程度			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
－				－					☐ 拡充	☐ 縮減	☐ 終期の見直し	見直し額	
									☐ 継続	☐ 休止	☐ 完了		
									☐ 整理統合	☐ 廃止	☐ その他		

敦賀・若狭アウトドアアクティビティブランド化事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R10 年度
事業実施方法	委託											
補助率	－											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野〔 3 楽しみを広げる(創造力) 〕 政策〔 9 北陸新幹線効果を最大化・持続化 〕					関連する県の計画等		〔 ネクストふくい観光ビジョン 〕				
[解決すべき問題・課題] リアス式海岸や三方五湖など多様な水辺空間やそれらに隣接する山々が強みであるにも関わらず、敦賀・若狭エリアでのアクティビティへの観光客の認知度が低い。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県全体に占める嶺南地域における観光客入込数が少ない。 R5観光入込客数(延べ人数) 嶺南地域 9,440千人(28.5%) 福井県全体 33,179千人						
[事業目的] アクティビティの魅力アップや連携による発信力の強化により、ブランドイメージ「アウトドアアクティビティを楽しむなら敦賀・若狭」の形成を目指す。												
[事業内容] アウトドアアクティビティを活用した観光誘客の実績が豊富な人物を地域おこし協力隊として採用し、個々のアクティビティの磨き上げやイベントの魅力アップ、一体的な情報発信などを進める。 ・個々のアクティビティの磨き上げ ・スポーツイベントの企画サポートや開催サポート ・様々なアクティビティの一体的な情報発信 ・外国人を受け入れできる体制づくりのサポート 等												
[受益者] 観光客、県民						[想定される受益者数] 嶺南地域への観光客(延べ人数)944万人(R5)						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

敦賀・若狭アウトドアアクティビティブランド化事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	外	部局名	嶺南振興局	課名	嶺南プロジェクト推進室	課長名	堀田 高史			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	■ 実行予算		事業 開始 年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R10 年度
事業実施方法	委託					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	－								□ その他					
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	3,663				3,663		全額特別交付税措置(地域おこし協力隊)							
[予算額の推移等] (単位:千円)														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移							3,663							
2月現計予算額の推移														
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	アウトドアを目的とした嶺南地域への来訪(%) (目標)実績						(15)	(20)	(20)	嶺南地域におけるアウトドアを目的とした訪問者割合の増加 (R5 約10% ⇒ R10 約20%)				
活動指標	記事作成数(本) (目標)実績						(8)	(12)	(12)	R7.8～月1本程度				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価						実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
－						－				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
										□ 継続	□ 休止	□ 完了		
										□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		